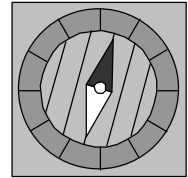


Orienteering Explorer



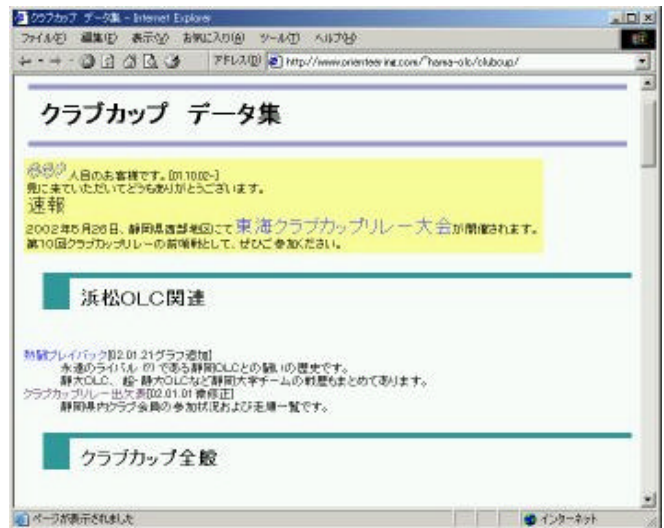
Internet Site Picking, Produced by Orienteering Magazine Project

Site #8: 浜松OLC「クラブカップデータ集」 <http://www.orienteeing.com/~hama-olc/clubcup/>

今や日本最大のオリエンテーリングイベントとなったクラブカップ。これまでの膨大なデータで遊んでしまおうというのがページのコンセプト。

作成者は浜松OLC監督の浅野昭氏。クラブ会報に「浅野理論」として連載したものを公開しているが、独特なのはその切り口。

多くの記事が取り上げるラップタイム解析や戦力分析ではなく「いかに完走するか」「男女混合リレーをいかに盛り上げるか」と、トップクラブでなくても共感できる内容のオンパレード。同県内のクラブで対抗戦を組む「ダービーマッチ」の元祖もここで、静岡OLCとの戦歴も記録されている。



「浅野理論」全開！！のトップページ

静岡ダービーの戦歴

選手層の厚い静岡に勝つことを目標として、クラブカップをめぐる提唱された浅野理論。これによれば、2001年には静岡に勝つと提唱されていた。クラブ員の努力の結果か、予想は良い方向に外れ、1年早く達成された。

過去の1軍チームの通算成績は浜松の1勝9敗。しかし今回の作手大会では静岡の15位、浜松の18位（オープン含む）と肉薄。タフなレース条件にあって、浜松は過去最高の順位を記録した。

今では静岡のほか、埼玉（みちの会 vs 入間市OLC）などでも行われており、今後の地域クラブの強化が期待できる。

ダービーがうまく成立するには、実力の接近したクラブが複数必要である。しかし、クラブはあっても、クラブの地力がダービーにそぐわないケースがある。そんな場合はどうすればよいだろうか。

完走することがクラブの地力単に上位進出だけが目標であれば、上位選手の強化で達成されるはず（決して簡単では無いが）。

浅野氏の切り口が一味違うのは、参加回数の少ない人も含めたクラブ全体に対する動機付けを行い、完走チーム数を上げて全体のレベルの底上げを図る点である。

そこで用いられるのが、クラブごとの正規チーム完走数データである。人数のみならず幅広い選手層が必要なこと、さらにその全員に完走能力が必要なこと。これを高いレベルで満たすクラブは数少なく、今回までに正規3チーム以上を完走させた地域クラブは、兵庫、多摩、京葉、大阪、ルーパー、E S 関東、そして浜松の6つしかない。浅野氏は、これをクラブの地力の現れとして重視する。

単なる上位比較にとどまらないクラブ対抗の形を、このデータは示唆しているようで興味深い。

ページ作成の動機は

他のクラブにおける監督とは一味違う活動を行っている浅野氏だが、このような活動を行うのは、実は浜松が初めてではない。

中学～高校では麻布学園OLC、大学では東工大OLT。ともに在籍中は目立たないクラブであったが、自身の卒業後にインターハイ/インカレエリートを輩出。現在では両校とも関東高連/関東学連の中心クラブになっている。

浅野理論について、氏は「人口60万に満たない地方都市でも、大都市圏にあるクラブにに負けないだけの魅力的なクラブが作れることを証明したかった」と語っているが、その効果は麻布や東工大ですでに実証済み。

これを自クラブ流にカスタマイズすれば、どこでもダービーが楽しめるようになるかな？

文：佐々木 順（サン・スーシ）
junkun@orienteeing.com